

自衛隊への「駆けつけ警護」任務付与反対 南スーダンPKO部隊を今すぐ撤退させるべき

政府は15日、南スーダンのPKO（国連平和維持活動）に派遣する陸上自衛隊に、戦争法に基づく「駆けつけ警護」を新任務として付与する閣議決定を強行し、20日に陸上自衛隊第11師団（青森市）の第1次派遣130人を南スーダンに派遣しました。戦争放棄を掲げた憲法に違反し、PKO法の原則さえ逸脱したこの暴挙に私たちは強く抗議します。

内戦状態の南スーダン PKO参加5原則は崩壊

南スーダンはすでに自衛隊がPKO活動ができる状況ではありません。7月に首都ジュバでキール大統領派とマシャール前第1副大統領派の間で激しい戦闘が起き内戦状態にあります。この戦闘では死者は1000人を超え、その後も連日多数の死傷者が出ています。7月の戦闘を機に1000人の部隊を派遣するケニア軍が南スーダンからの撤退を決めました。すでに首都ジュバでの大規模戦闘で各国の文民警察官らも国外に退避している状況にあります。「停戦合意の成立」「中立性」などのPKO派遣の前提となる参加5原則自体が崩壊しているのです。

自衛隊のPKO参加5原則――

- (1)紛争当事者間の停戦合意が成立
- (2)受け入れ国を含む紛争当事者の同意
- (3)中立的立場の厳守
- (4)以上の条件が満たされなくなった場合に撤収が可能
- (5)武器使用は要員防護のための必要最小限に限る

国連報告さえ黙殺して、ウソを積み重ねる日本政府

国連事務総長特別顧問は今年11日、「民族間の暴力が激化し、ジェノサイド（集団殺害）になる危険性がある」と警告しました。8月から3か月間の情勢をまとめた国連報告書は、現地は「カオス（混とん）に陥りつつある」としています。

ところが日本政府は国連報告さえ無視し、「武力紛争は発生していない」「治安は安定している」などとウソを積み重ねることで自衛隊派遣を強行しているのです。

「殺し殺される」事態が現実 自衛隊PKOを撤退させるべき

駐留するだけでも危険な上に、新たな任務として付与された「駆けつけ警護」や「宿営地の共同防衛」などは、戦闘現場への突撃や威嚇・警告射撃、他国軍との共同軍事作戦などにつながる極めて危険な任務です。それ自体が内戦に加担することです。政府は危険性をあいまいにするために「極めて限定的場面」「一時的な措置」などと言っていますが、泥沼化した内戦状態の現場に「限定」など通用しないのは明白です。

何のために、誰のために派遣されているのかさえわからないまま、「殺し殺される」事態が現実になってしまいます。絶対に避けるべきです。

私たちは、自衛隊PKOへの「駆けつけ警護」任務付与に強く反対します。南スーダンPKO部隊を今すぐ撤退させるよう要求します。 (2016.11.21.)

ライブ・イン・ピース☆9+25

TEL 090-5094-9483 (事務局 大阪)

<http://www.liveinpeace925.com/>

E-mail liveinpeace_heiwa@yahoo.co.jp

http://blog.goo.ne.jp/liveinpeace_925